

# 脱原発を考える 福井で集会

原発のない社会づくりを考える集会は、市民団体などでつくる実行委員会が、福井市田原一丁目のフェニックス・プラザで開き、九州大の吉岡齊教授らが講演。約五百人が参加した。

科学史が専門の吉岡教授は、戦後の原発開発の歩みを紹介。原発は使用済み核燃料などのほか、「地域社会がきつくしゃくしたり、原発なしにはやっていけないように、発展の芽が摘み取られたりと、社会的な負の遺産も残した」と指摘した。

国による原発立地地域への支援策や、国民負担の追加も指摘される東京電力福島第一原発事故の処理策などを「原発介護政策」と批判。「そんなに介護までして原発は必要か。必要ないことはこの六年間が証明している」と訴えた。

敦賀市出身の小野一工学



原発のない社会づくりをテーマに講演する吉岡齊教授=11日、福井市のフェニックス・プラザで

院大准教授も登壇し「原発に依存しない社会をつくるには、地域が活性化しないといけない。いかに地方を魅力的にしていけるかが問われる」と語った。

福島県浪江町から兵庫県に避難した菅野みずえさん（六巴）も被災体験を紹介。菅野さんの地元を含む帰還困難区域を除き、福島県内の避難指示が春に解除されることに触れ、「取り残されたような思いと、事故のことを当時知らされなかった町民に、国はまた事故があった際に知らせてくれるのかどうか、不安を持つ」と胸中を明かした。「皆さんが（原発事故を経験した）私たちにならないよう手を携えたい」と呼び掛けた。

集会終了後、参加者は会場周辺でデモ行進した。

（平野誠也）